

街区の更新再生と街路状敷地のデザインによる商店街空間の回遊・つながりの形成
 ～秋田県能代市柳町商店街を対象として～

都市空間生成研究室
 1841085 佐藤 健斗

秋田県能代市 商店街 街区の更新再生
 街路状敷地 徒歩 つながり

1. 研究の目的と背景

現在、商店街の再生は全国各地で行われている。能代市でも柳町商店街を再生させようと取り組みがなされているが、新規参入者への資金援助のみとなっている。実際、この制度はあまり効果を発揮しておらず、商店街内は閑散とした雰囲気となっており、年々空き店舗数は増加し、シャッター街と呼ばれてしまっている。

本研究は、柳町商店街内の商業的機能を強めるのではなく、街区ごとに周辺環境を考慮した建物の配置や用途の変更、ストリートファニチャーの設置や進路の制限による街路空間の新たな活用方法の提案により、歩きたい、訪れたいと思えるような空間を計画することを目的としている。

ショッピングセンター(以下、SC とする)に人が流れてしまっている、商店街に訪れる人の減少という現状を考えると、商店街へ訪れる人を増やすために、訪れたいと思わせるような空間を計画し、提案しようとする。

2. 能代市の特徴

2-1. 能代市の面積・人口

能代市は、秋田県北西部に位置し、東は北秋田市・上小阿仁村、西は日本海、南は三種町、北は八峰町・藤里町に接している。面積は 426,950 平方キロメートル(東西約 30 キロメートル、南北約 35 キロメートル)で、秋田県の面積の 3.7% を占めている。

地目別では、山林・原野が 25.7% (約 110 平方キロメートル)、農用地が 20.0% (約 85 平方キロメートル) で、宅地は 4.1% (約 17 平方キロメートル) となっている。^{*1}

能代市の全人口は 50,062 人である。そのうち年少人口は 4,025 人(8.04%)、生産年齢人口は 24,829 人(49.60%)、老年人口は 21,208 人(42.36%)となっている。(2020 年のデータ)

老年人口の全国の割合は 28.9% となっており、能代市の割合はその値をはるかに上回っている。この結果から能代市は深刻な少子高齢化社会となっている。総人口は減少傾向にあるが、老年人口は増加傾向にあるため、今後少子高齢化は進んでいくと考える。

2-2. 能代市の交通

能代市の公共交通の利用している割合について述べる。能代市が行った調査によると、外出時の交通手段として 1 番割合が高かったのは「自家用車」であった。週 5 日以上利用する割合が 57.9% であり、能代市では自家用車が主な交通手段となっており、次いで、「自転車」「徒歩」となっている。(図 1)

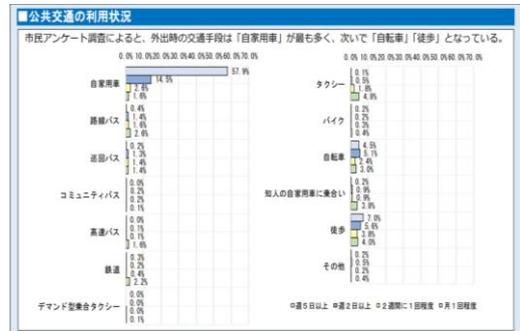


図 1. 能代市の公共交通の利用状況^{*2}

2-3. 柳町商店街の分析

2-3-1. 店舗立地状況

商店街内の店舗の立地状況についてまとめると、全体では 53 店舗(商店街内の 3 つの住居は除く)であった。(図 2)割合が 1 番多かったのは空き店舗であった。10 店舗あり、割合としては約 18.9%、中小企業庁が出している全国平均の 13.77% を超える値となった。次いで居酒屋が 9 店舗(約 17%)、飲食店が 8 店舗(約 15.1%)、衣服店が 7 店舗(約 13.2%)であった。

この調査により全国の商店街と比べても空き店舗数が多い商店街であることが分かる。加えて、能代市は空き店舗への新規参入者へ資金援助するという政策を行っているが、空き店舗数は約 10 年間変化しておらず、商店街の再生は成功していないのが現状である。また、柳町商店街にはイオン能代店が隣接しており、人が流れてしまっているという現状がある。加えて 2021 年 11 月には、新たにイオンタウン能代が建てられ、より人が流れてしまうと考えられる。

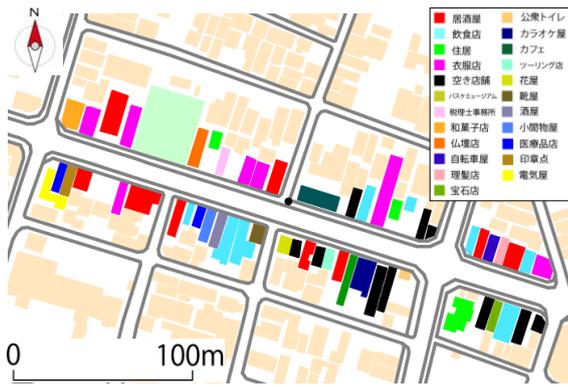


図 2. 商店街内の店舗の立地状況

2-3-2. 商店街交通量

交通量調査は能代市が行っている直近 13 年(平成 20 年～令和 2 年)の調査をまとめた。時期は毎年 11 月第 1 週に実施し、調査時間は 7:00～19:00 の 12 時間での商店街の入り口 2 地点での交通量をまとめる。交通量(人)はほぼ横ばいであったが、交通量(自転車)は年々減少傾向であった。交通量は人・自転車のどちらも商店街西口の方が 2 倍近く多い。イオンを訪れるために商店街を通る人、イオンでの買い物を終えて帰宅する際に商店街を通る人が多くみられたため、商店街西口の交通量が多くなっていると考えられる。

3. 計画内容

3-1 コンセプト

隣接するイオンや、新たにできるイオンの影響もあり、商店街内で買い物という行為をする人が増えるということはあまり期待できないと考え、本研究では歩いていて楽しい、歩くために訪れたいと思わせるような空間を形成することをコンセプトとし、ストリートファニチャーなどによる歩行空間の充実や、街路内の店舗の属性や配置の変更により、「商店街に訪れる」という新たな選択肢を人に与える。

3-2 計画詳細

① 街区の更新変更

商店街に面する街区内の建物の配置や属性を周辺の街区や環境を考慮したうえで変更した。(図 3)居酒屋が多く集積していた街区では、それらを集め裏路地の飲み屋街のような空間をつくった。商店街内の空き店舗を撤去してできた空間にコミュニティ施設を新設し、イベントの開催などで交流を促す。バスケットボールミュージアムの前にバスケットリングを置き、少しでも能代の良さに触れられる機会をつくった。また、街区内だけでなく街

路にまで活動の幅を広げていくことで、常に新たな人とのかかわりが生まれるようにした。

② 街路状敷地のデザイン

来街者を調べると、自転車・徒歩での割合が多かったため、商店街内への車の侵入を制限し歩行者のための空間とする。ストリートファニチャーの配置や、歩くルートをあえて制限するなどして「歩く」という行為に変化をつけ、歩くために訪れる人を増やそうと考える。来街者が増えることで、これまでよりも商店街内での人と人との関りや交流を生むことが可能となる。



図 3. 計画配置図



図 4. ストリートファニチャーによる街路のデザイン

注

- 1) 平成 30 年 1 月 1 日現在、平成 30 年版「能代市の統計」より
- 2) 能代市地域交通網形成計画の策定についてより

参考文献

- 1) 中小企業庁：「平成 30 年度商店街実態調査の結果を公表します」、[中小企業庁：平成 30 年度商店街実態調査の結果を公表します \(meti.go.jp\)](http://meti.go.jp),1/20
- 2) 内閣府：「高齢化の現状と将来像 | 令和 2 年版高齢社会白書(全体版)」, [1 高齢化の現状と将来像 | 令和 2 年版高齢社会白書 \(全体版\) - 内閣府 \(cao.go.jp\)](http://cao.go.jp),1/24
- 3) 能代市：「能代市のプロフィール」, [能代市のプロフィール - 能代市 \(noshiro.lg.jp\)](http://noshiro.lg.jp),1/24
- 4) 能代市：「歩行者・自転車通行量調査」, [歩行者・自転車通行量調査 - 能代市 \(noshiro.lg.jp\)](http://noshiro.lg.jp),1/24
- 5) 能代市：「能代市地域公共交通網形成計画 ー概要版ー」[282146download.pdf \(noshiro.lg.jp\)](http://282146download.pdf),1/24